

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス PLUSYOU marilyn				公表日	2025年12月 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		活動に合わせテーブル等を移動し活動空間を広げている。	規定を満たしているが、混み合う時間帯は活動スペースが重ならないようにしていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		支援内容に合わせ職員を増やしています。	法令で必要とされている配置をしているが、支援内容に合わせ柔軟な対応や、より手厚い人員配置をしていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		靴箱を置かず、靴は揃えて置く状態を見える化している。	玄関の段差は、バリアフリーにするか必要に応じて検討していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		行事や季節に合わせた装飾空間と学習空間を設け学びによって空間を分けている。	引き続き清潔に保ち、チェックを継続していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		基本的に仕切られた空間で個別対応になっている。	常に空きスペースを作り対応できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	80%	20%	日ごろより、意見交換をして、業務改善を進めている。	できるだけ多くの職員が参加できるようにしていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	80%	20%	アンケートを一年に一回実施し、業務改善に努めている。また、日ごろより苦情・相談受付用紙を設け業務改善につなげている。	より多くの意見を吸い上げやすくする為の工夫をしていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	80%	20%	毎月職員会議を開き意見する場を向けている。不在の場合は、事前に意見用紙に記入できるようにしている。	改善された業務を漏れがないように職員に周知していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	20%	80%	現在は外部評価は考えていないが、今後は検討する努力をしていく。	検討する努力をしていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	80%	20%	外部研修や事業所内の研修を行い、知識や技術の向上を図っている。	年間を通して研修を組んでいるが、より具体的な研修を取り入れ質の向上を目指す。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		目標やねらいを設定し活動のプログラムを立案している。	役割分担とチームワークをより確率していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		児童や保護者と随時面談を行い、事業所内で個別支援会議を開催した上で個別支援計画を作成している。	データ化したグラフなどを用いより分かりやすく説明できるようにする。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		ケース会議を開催し共通理解を深めている。	日々の記録も含め、引継ぎを丁寧に行っていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		毎月、ケース会議、職員会議の中で共通理解を深めています。	職員間で偏りなく共有できるように丁寧に説明していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		保護者様にも協力を得ながら確認し支援に活かしている。	分析までしっかり行い理解を深めていけるようにする。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		ガイドラインに沿い、子どもに必要な支援を設定している。目標に沿いより具体的な支援を提供できるようにしている。	地域支援や連携については、積極的に関わっていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	80%	20%	気がついた点や課題等が見つかった場合は、情報を共有し、支援の振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		HUGシステムを利用し、毎回保護者様が確認	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		活動の振り返りをもとに、工夫している。今後も継続していく。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		基本的に児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%		新規の1年生は、引継ぎ会議を通して情報共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	80%	20%	まだ、就労移行した児童はいませんが、引継ぎや情報提供できる体制は整っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	80%	20%	メールや広報で研修情報を確認したり、研修を受けています。研修での助言やアドバイスを支援に活かしています。	毎年、研修への参加率を増やしています。必要と思われる研修へ積極的に参加できるようにしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		100%		現在は実施していない。検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	40%	60%	ホームページで公開している議事録を確認している。またイベントのパンフレットの掲示や保護者に案内をしている。	機会を見て参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		毎回、振り返りでお子様の状況を確認している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	80%	20%	毎回、振り返りでお子様の状況を確認している。また同席で支援の仕方を見学後、アドバイスや質問を受けている。	今後は、家族等が参加できる研修会を検討している。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		面談や振り返りの時間で確認しています。希望は出来るだけ本児の言葉を記載している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		100%		どのような形で保護者会等を開催していくか検討中です。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	80%	20%	HUGシステムやSNSで発信している。	定期的に発信しているが、全体に周知できるように掲示や声かけをしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		鍵をかけ書庫で管理している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100%	夏休みは、期間を設け涼を楽しむミニゲームスペースを設けている。	近隣の商業施設の来客者や周辺住民にも周知できるように工夫していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		定期的に研修をしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%		現在対象者はいないが、契約時に身体拘束について説明している。		